

令和4年度 前期日程 入学者選抜学力検査問題

歴史[日本史]解答例

1

- 問1 聖明王（聖王）
- 問2 新羅
- 問3 鞍作鳥（止利仏師）
- 問4 北魏（魏）
- 問5 中宮寺
- 問6 国博士
- 問7 乙巳の変
- 問8 三善清行
- 問9 長岡
- 問10 ⑤
- 問11 (i) 私度僧 (ii) 租税を免除してもらえる特権
- 問12 徒
- 問13 心学
- 問14 石田梅岩
- 問15 寺子屋
- 問16 懐徳堂
- 問17 佐竹義和
- 問18 閑谷学校
- 問19 奥羽越列藩
- 問20 会津
- 問21 榎本武揚
- 問22 戊辰
- 問23 山内豊信（容堂）
- 問24 幕末函館に建造された，ヨーロッパ風の星形城塞

2

- 問1 後三条（一天皇・上皇・院）
- 問2 院宣
- 問3 鳥羽
- 問4 受領が私財を出して官職を得る成功や再任を求める重任などの売位・売官によりまかなわれた。
- 問5 後白河天皇
- 問6 勘合（一符）
- 問7 倭寇が朝鮮半島から中国沿岸部にかけて進出し略奪を働いたため，明国は日本人の渡海（私貿易）を禁止した。
- 問8 日本国王
- 問9 館（道南十二館）
- 問10 東南アジア諸国と中継貿易を行っていた琉球からもたらされた。
- 問11 1871年に琉球漂流民が台湾で殺害された事件を口実に1874年に出兵した「台湾出兵」

のこと。

問 12 江戸時代以来、薩摩藩の実質的な支配を受けていたが、清を宗主国としていたこと。

問 13 藩王

問 14 富山県

問 15 寺内正毅

問 16 第一次世界大戦の「大戦景気」及びシベリア出兵に伴う米の買い占め。

問 17 ヤルタ

問 18 ドイツ降伏後のソ連の対日参戦および千島列島、南樺太のソ連への譲渡。

問 19 女子挺身隊

3

【出動意図・採点基準】

(A) 奈良時代の仏教の展開について、中国などとの関係を視野に入れて理解できているかを問う問題である。なお、論述にあたって手がかりとなる語句を提示して問い、以下の論点を理解できているか確認した。具体的には、①遣唐使によって唐に留学する僧侶により最新の仏教の教義が伝えられ、その中には玄奘のように帰国後に中枢で活躍した人物がいたこと、②彼らによって仏教の經典や教義が伝えられた結果、法相宗や華嚴宗など南都六宗と呼ばれる学問研究のための宗派が成立したこと、③戦乱や疫病の蔓延ののち、聖武天皇により護国のために国ごとに国分寺、国分尼寺が建立されたこと、④次いで出された大仏造立の詔により、紫香樂宮で盧舎那仏が作り始められ、東大寺でおこなわれたその開眼供養は、インド僧や中国僧も参列する国際色豊かなものであったこと、⑤聖武天皇の信任を得て大仏造立に従事した行基は、民衆布教に力を尽くし、架橋などの社会基盤整備、また社会福祉事業にも積極的にとりくんだこと、⑥入唐した僧に請われ来日した唐僧の鑑真によって戒壇が東大寺設けられ、下野薬師寺、筑紫観世音寺とともに三戒壇として重視されたことなどを記すことを期待している。

(B) 近世初期の外交・貿易について、当時の国際情勢を視野に入れて理解できているかを問う問題である。なお、論述にあたって手がかりとなる語句を提示して問い、以下の論点を理解できているか確認した。具体的には、①ポルトガル・スペインによる南蛮貿易とキリスト教布教が始まったこと（スペインがマニラを、ポルトガルがゴアやマカオを拠点に東アジアに進出してくる）、②豊臣政権期は、貿易活動と一体化していたキリスト教の取り締まりは不徹底であったこと（バテレン（宣教師）追放令を出して宣教師の国外追放を命じる一方、国内の豪商が東南アジアに出るなど貿易は活発）、③江戸幕府の外交政策が国際情勢下におけるオランダの台頭と連動して展開すること（リーフデ号漂着により、ウィリアム・アダムズ・ヤン＝ヨーステンらが幕府

の外交顧問になる)、④朱印船貿易が活発に行われ、日本船が東南アジアに進出していくこと(日本人町が各地にできて、タイでは山田長政が活躍)、⑤江戸幕府の主体的な外交政策・貿易統制が展開すること(糸割符制度でポルトガル商人の利益独占を排除)、⑥最終的にオランダ船・中国船の長崎来航に限定する(禁教令を契機に外国船来航・日本人の海外渡航を禁止していき、貿易港も長崎出島に限定する)、以上の6つの特徴を関連付けながらその因果関係・過程を正確に理解できているかどうかを問うた。キリスト教禁止・鎖国への過程を予定調和的に理解せずに、日本を取り巻く国際情勢と各政権の政策・対応を正確に理解し、なおかつ論理的に説明できているかを中心に評価した。

(C) 日清戦争やその前後の産業革命によって東アジアにおける日本の位置の変化をふまえ、国内政治と社会がどう変化したかを問う。以下の諸点が論述されているかどうか採点の基準となる。

外交について—①三国干渉にみられる列強の圧力に抗する軍事力を構築するために、賠償金のほぼ6割は軍備拡張に投入されることになった。②日清戦争後、列強は租借地や鉄道の利権を競って獲得し、勢力圏が設定される。それに対して中国では扶清滅洋を唱える義和団が広がり、1900年には北京を包囲し、清国は列強に宣戦布告したために列強は連合軍を派遣し日本もこれに加わった。

政治について—①日清戦後の軍備拡張を中心とする積極政策を遂行するために藩閥政府は政党と提携関係を形成したが、地租増徴問題で地主を支持基盤とする政党はこれに応じられず、憲政党を結成し最初の政党内閣である隈板内閣が成立した。②政党勢力の伸張をおさえるために1900年軍部現役武官制が制定されたが、政党の勢力を無視することはできず伊藤博文は立憲政友会を結成し、これに対抗して官僚勢力は山県有朋を中心に結集した。

社会について—①日清戦争前後の時期には、産業革命と軍備拡張政策の影響により資本主義が急速に発達したため、工場労働者が急増し労働組合が組織された。②また、農商務省『職工事情』に見られるように都市下層社会や労働者の貧困が社会問題として取り上げられるようになった。それを背景とした社会運動の成長に対しては治安警察法が制定され、労働運動は打撃を受けた。

全体として外交・政治・社会について、羅列ではなく関連性をもって論述できるかどうかポイントとなる。

4 歴史学科受験生のみ。

3 に同じ

令和4年度 前期日程 入学者選抜学力検査問題

歴史〔世界史〕解答例

1

- | | | |
|-----------------------|--|--------------------|
| 1. アッシリア王国 | 2. イスラエル王国 | 3. バビロン (バビロニア) 捕囚 |
| 4. ヤハウエ | 5. 旧約聖書 | 6. プルタルコス |
| 7. マルクス・アウレリウス・アントニヌス | | 8. アレクサンドロス |
| 9. ガリア戦記 (or 内乱記) | 10. ストラボン | 11. スカンディナヴィア |
| 12. ヴァイキング | 13. ロロ | 14. ノルマン・コンクエスト |
| 15. シチリア | 16. 呉楚七国の乱 | 17. 大月氏 |
| 18. 張騫 | 19. 敦煌郡 | 20. 曹丕 |
| 21. 屯田制 | 22. 地方に置かれた中正官が、各地域社会の人物評価をもとに人材を9段階に評価して中央に推薦する制度 | |
| 23. 司馬炎 | 24. ウイグル | 25. 楊炎 |
| 26. 塩 | 27. 黄巢 | 28. 朱全忠 |

2

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|-----------------|
| 1. アジャンター (石窟寺院) or エローラ | 2. 『マハーバーラタ』 / 『ラーマーヤナ』 | |
| 3. カーリダーサ | 4. ヒンドゥー教 | 5. ハールーン=アッラシード |
| 6. シャリーア | 7. 大アミール | 8. イクター |
| 9. 聖像禁止令 | 10. テマ | 11. プロノイア |
| 12. カール=マルテル | 13. ピピンの寄進 | 14. クレルモン |
| 15. ファン=ボイ=チャウ | 16. ドンズー (東遊) 運動 | |
| 17. ベトナム独立同盟 (会) or ベトミン | 18. ジュネーヴ (休戦) 協定 | |
| 19. 南ベトナム解放民族戦線 or ベトコン | 20. ドイモイ (刷新) | |

3

(A) 個々の知識の正確さのほか、以下を重視している。

①個々の事件や現象の羅列ではなく、「世界の一体化」を論述の主題として、論理的に文章が展開しているかどうか。

②以下の要素の多くが、記述に盛り込まれているかどうか。

・世界の一体化の契機として、スペイン、ポルトガルだけでなく、イギリス、フランス、オランダなどの大西洋沿岸の西欧諸国が、大航海時代以降アジア、アフリカ・アメリカに進出し、征服・植民・商業活動に従事したこと。

・それまでヨーロッパ経済の中核であった地中海諸国が相対的に衰退して、西欧諸国がヨーロッパの貿易活動を中心に担う商業革命と呼ばれる変化が起こること。

・スペイン領アメリカで16世紀以降銀が大量に採掘され、ヨーロッパに持ち帰られて、価格革

命と呼ばれる物価騰貴が起こること。

- ・アメリカ銀は、スペイン領アメリカからスペイン領フィリピンに運ばれたほか、イギリスやオランダ、フランスなどによって入手され、東インド貿易の決済に使用され、アジアにも伝播し、アジア世界にも大きな影響を与えたこと。

- ・商業革命により西欧諸国が商工業中心の経済的先進地域になる一方で、東欧では西欧に向けての穀物輸出が増加し、東西の分業体制が進み、それがそれぞれの社会構造にも影響を与えること。

(B) 本問は現代中国の出発点となった文化大革命の展開を論述させる設問である。そのさい、重要な用語の使用を義務づけて、それぞれの用語、また用語間の関係があらわす歴史の推移に対し、正確な理解と適切な表現ができていないかを総合的な評価のめやすとした。主要な人物がどのような役割を果たしたかの理解度がポイントである。

4 (歴史学科のみ)

(A) 本問は12世紀以降、中国の体制教学としてきわめて重要な役割をはたした朱子学の創設過程を論述させる設問である。そのさい、重要な用語の使用を義務づけて、それぞれの用語、また用語間の関係があらわす歴史の推移に対し、正確な理解と適切な表現ができていないかを総合的な評価のめやすとした。宋学形成の背景・過程、および朱子学の内容の特徴をどれだけ関連づけて理解できているかがポイントである。

(B) 以下の点について理解されているか、変化の過程に従ってわかりやすく記述されているかを、重視している。

- ・原材料である綿花と、工業製品である綿糸・綿布（綿織物）を区別したうえで、それぞれの生産と貿易について論述できているか、また工業製品製造の優位性と原材料生産の従属性が理解できているか。

- ・毛織物がヨーロッパ、とくにイギリスの伝統的繊維産業、主要貿易品目であることについての認識。

- ・17世紀以降、ヨーロッパではインド産の綿布が人気となり大量に輸入されて、毛織物業者がその輸入に反対して一時は輸入禁止法や着用禁止法が制定されるほどであったこと。

- ・18世紀以降、特にイギリスでは綿製品の国産化が目標となり、18世紀の後半には紡績機や織機の改良、水力や蒸気機関といった動力の導入など産業革命と呼ばれる一連の技術革新が進み、19世紀初頭には世界で最も綿工業の発達した国家となること。

- ・北アメリカ南部ではイギリス綿工業向けの綿花栽培を行う奴隷制プランテーションが発達すること。同様の綿花プランテーションは西インド（カリブ）諸島やインド、アフリカなどにも展開していくこと。

- ・インドは、19世紀にはイギリスの綿製品に凌駕され、綿製品の輸出地域から輸入地域へと転換し、イギリスのインド支配が進展するとともに、綿花や藍、アヘン、ジュート麻などの原材料のプランテーションが進展すること。